

## 高度 ICT 利活用人材育成カリキュラム（コア部分）概要

本カリキュラムは、「教育課程」、「指導ガイドライン」及び「教材開発ガイドライン」から成り、各分野横断的な教科・科目構成（5教科17科目）となっている。

- 教育課程： 教育事業者等が高度 ICT 利活用人材育成に係る研修コースの企画・実施に当たり、受講者に対する育成指針
- 指導ガイドライン： 教育課程に基づき企画・実施される研修コースにおいて、指導を行う際の留意すべき点を取りまとめた指導指針
- 教材開発ガイドライン： 教育課程に基づき企画・実施される研修コースにおいて、教材を作成する際の留意点を取りまとめた教材開発指針

表 1 高度 ICT 利活用人材育成カリキュラム 構成

教科 5教科		科目 17科目	
1	高度 ICT 利活用におけるクラウドの基礎	1	クラウド入門
		2	ビジネスとクラウドの接点
		3	クラウドの要素技術
2	高度 ICT 利活用におけるクラウドの戦略的活用	4	クラウド利活用のための全社 ICT 戦略
		5	経営のためのセキュリティリスク対策
		6	クラウド化の推進・促進
		7	事業継続計画（BCP）
8		8	継続的サービス改善
3	高度 ICT 利活用におけるクラウドの企画・調達	9	クラウドの適合性
		10	クラウドの調達
		11	クラウドの利用契約
4	高度 ICT 利活用におけるクラウドの導入・運用	12	クラウドの導入
		13	クラウドの利活用
		14	クラウドの運用
5	総合演習	15	上位マネジメント総合演習
		16	利活用部門総合演習
		17	情報システム部門総合演習

## 研修コースの設計

教育事業者等は、本カリキュラムのすべての教科・科目を利用し、研修コースの設計が可能であるが、本カリキュラムの一部の教科・科目を抽出し、又は教育事業者等の自らの科目・教科を加える等の研修コースの設計でも可能である。

また、教育事業者等は他の教育事業者等と連携または分担して研修コースを企画・実施するとき、各教育事業者等が設計した研修コースと組み合わせ、一の提携コースとして研修コースを実施することも可能である。

## コマ数及び講習時間数

各科目のコマ数は、教育課程「総則 0.2. 教科・科目の全体構成」(別紙)に示す科目ごとのコマ数とし、1コマ当たりの講習時間数は、90分間を標準とする。

## 教育事業者等の配慮事項

- ・ 教育事業者等は、受講者が研修期間を通じて学習意欲を維持し、教育効果を向上できるよう研修コースの設計を行わなければならない。この場合、初回の講義に先立ち受講者による小グループを編成してグループ討議を実施させる等、あらかじめ受講者間の連帯感の醸成を図り、研修期間中、受講者が相互に協力して学習できる環境を提供することが望ましい。
- ・ 教育事業者等は、研修コースの終了後、受講者からの照会に対し一定期間対応できるよう配慮しなければならない。
- ・ 教育事業者等は、受講者の募集に当たっては、受講前提、履修目標、スケジュール、受講料、その他必要事項を明確にしなければならない。
- ・ 教育事業者等は、本カリキュラムによる研修コースを実施した時は、高度 ICT 利活用人材育成推進会議事務局又は総務省の求めに応じ、本カリキュラムの改訂のために必要な協力(教育事業者及び受講者へのアンケート・インタビュー調査、個人を特定しない範囲で受講者の成績の提供等)行わなければならない。

以上、高度 ICT 利活用人材育成カリキュラム(コア部分) Ⅰ. カリキュラムカバーから抜粋。

## 教育課程「総則 0.2.教科・科目の全体構成」

教科および科目の全体構成を以下に示す。

表 0-2

教科	科目	コマ数
高度 ICT 利活用における クラウドの基礎	クラウド入門	1
	ビジネスとクラウドの接点	1
	クラウドの要素技術	2
高度 ICT 利活用における クラウドの戦略的活用	クラウド利活用のための全社 ICT 戦略	1
	経営のためのセキュリティリスク対応	1
	クラウド化の推進・促進	1
	事業継続計画 (BCP)	1
	継続的サービス改善	1
高度 ICT 利活用における クラウドの企画・調達	クラウドの適合性	1
	クラウドの調達	1
	クラウドの利用契約	1
高度 ICT 利活用における クラウドの導入・運用	クラウドの導入	1
	クラウドの利活用	1
	クラウドの運用	1
総合演習	上位マネジメント 総合演習	4
	利活用部門 総合演習	4
	情報システム部門 総合演習	4

※ 表0-2の科目ごとのコマ数として、1コマ当たりの講習時間は、90分を標準とする。